

実施結果概要

以下のとおり火売自治会で研修会を開催した。

I 日時

平成 29 年 2 月 25 日（土） 19:30～20:00

II 場所

火売公民館

III 研修参加対象者

約 35 人

II 研修会の概要

1 「ともに生きる条例と地域における配慮について」（説明）（障害福祉課職員）

パンフレット、資料にしたがってともに生きる条例の概要を説明し、地域の人に求める障がいのある人への配慮として次のことをお願いした。

- ・ 車いすを押す、高いところにあるものを取るなど必要なときのちょっとした手助け
- ・ 異変があった場合の病院等への連絡など
- ・ 大声を上げたり走ったりなどの行動があったとしても、障がいの特性によるものと理解したうえで対応する。

2 「障がいのある子の親として」（講師団講師 大久保 多津子 氏）

知的障がいのある子を持つ親の立場から、商業施設で声を上げたりしたことで警察に保護され、謝罪しなければならなかったことなどの体験について、及び地域の人には、声かけなど積極的には行わなくてもよいが、いざというときのために見守りをしていたけるとありがたい、などの話があった。

3 「意見交換」

障がいのある人が地域に溶け込んで生活するためには、どのようなことが必要なことかをテーマに意見交換を行った。

（参加者から）

- ・ 災害時の対応などを考えると、地区ごとの障がい者名簿を整備し、自治会や民生委員に渡しておく必要があるのではないか。
- ・ 障がいのある人個人個人の特性を共有する必要があるので、その手法を検討してほしい。

（障害福祉課から）

- ・ 障がいのある人の情報の提供については、個人情報保護の観点も考慮する必要があるが、災害時の対応などと併せて検討していくべきことと思う。

4 「アンケート記入」

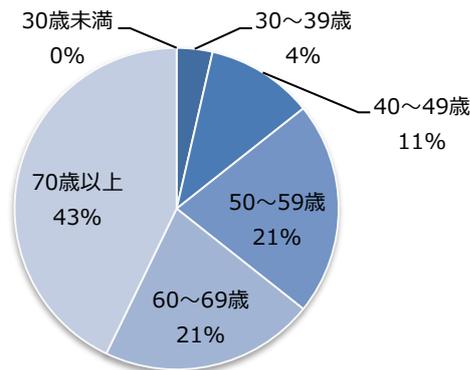
回収数 29。アンケート集計結果は別紙のとおり。

平成 28 年度「ともに生きる条例」について理解する研修会（火売）

アンケート集計結果

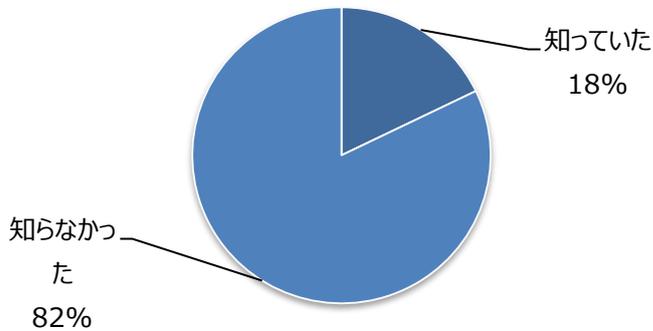
調査実施日 平成 29 年 2 月 25 日（土）、回収数 28

I 年齢



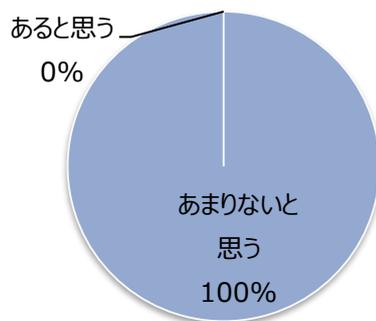
年齢区分	人数
30歳未満	0
30~39歳	1
40~49歳	3
50~59歳	6
60~69歳	6
70歳以上	12
合計	28

II 「ともに生きる条例」をご存知でしたか？



	人数
知っていた	5
知らなかった	23
合計	28

III お住まいの地域では、障がいのある人は地域行事への参加など地域での交流はありますか？



	人数
あると思う	0
あまりないと思う	27
合計	27

IV 障がいのある人が地域により溶け込んでいくためには、どのようなことが必要だと思いますか？

○障がい理解

- ・一人一人が受け入れられる地域・家庭になるよう学習が必要。
- ・障がいを理解すること。
- ・障がいに対する正しい知識を持つ人を増やす。

○交流の場

- ・町内の行事や地域の人たちと交流を深める。

○情報提供

- ・障がいのある人の情報が入らないので、地域で把握できない。
- ・障がい者の情報を地域内で把握する。

○障がいのある人からの発信

- ・町内に対して要望を積極的に出す。
- ・障がいがあることを地域の人に知らせる必要がある。
- ・障がいのある人が何ができて何ができないか、それがわかれば周りの人も手助けができると思う。

○障がいのある人の行事等への参加

- ・地域の行事等に参加する。
- ・障がいのある人も積極的に参加すること。
- ・運動会などのイベントに参加していただく。

○ふだんのつながり

- ・信頼関係が大事である。心を開いて話し合えるといいですね。
- ・互いの協力。
- ・近隣とのつながりが必要。

V 障がいのある人が暮らしやすいまちにするためには、どのような配慮が必要だと思いますか？

○バリアフリー

- ・段差をなくす。
- ・住宅のすみやすさ、環境。

○相談、コミュニケーション等

- ・交流の場所を設定する。
- ・人とのコミュニケーション、思いやり。
- ・相談できる環境を整える。
- ・色々な面での助け合いが重要

○新たな仕組み

- ・各地区で障がいのある人を時々訪問するシステムづくり。

○その他

- ・ある程度の医療の知識がなければ対処できないのでは。・要注意の場所を掲示する。

VI その他自由意見

- ・声かけをしていく中で顔見知りになれるようみんなで努力・協力していきたい。
- ・協力していきたいです。
- ・障がいを持つ子どもの親ごさんは実情をかくさず明るく話してほしい。とても感動しました。
- ・情報公開が必要。個人情報でもあるが、一大事に何かあったときは、それも関係ないと思う。生きることが大切。
- ・町ごとに障がい者名簿を保有する形にしてほしい。
- ・なかなか難しい問題だと思います。